

## II

### 英語教育研究グループ

#### Enjoy English

—小中一貫教育をとおして—

#### 英語教育研究グループ

<研究員>

千里第二小学校	教諭	西田 沙織
千里新田小学校	教諭	出野 友美
佐竹台小学校	教諭	山本 圭司
高野台小学校	教諭	佐野 彩子
桃山台小学校	教諭	荒木 大輔
千里たけみ小学校	教諭	宮原 典子
第一中学校	教諭	池田 広恵
第五中学校	指導教諭	石井 佳代子
南千里中学校	教諭	小林 恵里
豊津中学校	教諭	藤田 幸
山田中学校	指導教諭	神崎 由紀
千里丘中学校	教諭	高尾 渚

<スーパーバイザー>

関西大学 外国語学部長 教授 竹内 理

## 目 次

1. はじめに	1
2. 研究目的と概要	1
3. 研究経過	2
4. 今年度の取組	2
(1) 英語活動研修への参加	3
①小中の接続期・・・中学1年生の学習指導案 研究協議から	
②小中の接続期・・・小学6年生の学習指導案 研究協議から	
③小中の接続期・・・中学1年生と小学6年生の研究授業から	
(2) 英語研究グループ作成指導略案をもとにした公開授業	15
①参加者配付資料の中から・・・授業者 日時 等	
②公開授業・研究協議から	
5. おわりに	20

## 1. はじめに

本研究グループは、平成18年度に発足し昨年度までは「小学校英語研究グループ」として研究活動をしてきました。まず、簡単に昨年度までの流れを報告します。

小学校英語活動の本格的な実施をスムーズに迎えられるよう、「英語ノート」や研究グループで作成の教材を使った授業研究。また環境整備の研究にも取り組んできました。特に担任がひとりで1時間の授業を行うための、より実践的な取り組みとして「電子黒板」と「英語デジタル版」を活用した授業研究に力をいれました。また、「外国語活動 評価文例集」を生かし、評価の観点や方法についても研究を進め、研究授業を通して提案をしました。このように平成18年度から平成23年度までは小学校外国語活動・小学校英語教育と、小学校の英語活動を中心に研究を重ねています。

今年度はこれまでの活動をもとに中学校英語との隔たりを無くし「小中一貫教育」を根底に「英語教育研究グループ」と名前も変更して活動を始めました。

スーパーバイザーには引き続き、関西大学外国語学部 部長 竹内 理 教授にお願いしました。

## 2. 研究目的と概要

今年度は「Enjoy English」 ―小中一貫教育をとおして― がスローガンです。

新教育課程のもと小学校外国語活動がはじまり、中学校英語教育との連携がさらに重要になってきたなか、吹田市の重点課題でもある「小中一貫教育」の第一線を英語教育から！と、いう思いをこめてスタートしています。

初年度である今年は小中の接続期である小学校6年生・中学校1年生に重きをおいて研究を始めることにしました。

副読本が「英語ノート」から「Hi, friends!」にかわり、小学校の先生方の中には不安を感じている方も少なくありません。そこで、今年は簡単で使いやすい指導略案を35時間、6年生の1年間分つくることにしました。英語活動を負担に感じることなく、子どもとともに楽しんで授業ができるもの・吹田市独自の名所や名物を教材化したもの・アクティビティ等「Hi, friends!」をもとに、「吹田の子どもたちにつけたい力」を検討しながら研究員が知恵を出し合っています。

私たち研究グループがつくる指導略案は、担任が授業を行う際に役に立ち、誰にでもわかりやすく、いつでも使えるものが目標です。その略案をもとに授業研究を行い、さらに研究協議を重ねて、指導略案の練り直しをしていこうと考えています。

また、授業者が子どもの実態に合わせてアレンジできるような幅のあるものを研究します。

### 3. 研究経過

- 第1回研究会 平成24年5月18日(金)  
研究グループ総会・顔合わせ・方針等
- 学習会 平成24年6月14日(木) 英語活動研修 授業研修への参加  
小学校外国語活動を生かした中学1年生の授業(豊津中 藤田幸 教諭)
- 第2回研究会 平成24年7月31日(火)  
アクティビティの検討
- 第3回研究会 平成24年10月16日(火)  
Lesson1・Lesson2 指導略案の検討
- 第4回研究会 平成24年10月29日(月)  
「Hi, friends! 2」を活用した小学6年生の授業・授業研究  
担任と中学校専科教員によるT・T形式の授業  
(千里第二小 藤川久美 教諭・第一中 池田広恵 教諭)
- 第5回研究会 平成24年11月6日(火)  
「Hi, friends! 1」を活用した小学5年生の授業・授業研究  
担任と中学校専科教員によるT・T形式の授業  
(千里新田小 住友としみ 教諭・南千里中 小林恵里 教諭)
- 第6回研究会 平成24年11月30日(金)  
Lesson2・Lesson3 指導略案の検討
- 第7回研究会 平成24年12月19日(水)  
Lesson3・Lesson4 指導略案の検討  
「Hi, friends! 1」 Lesson9 (1/31の公開授業) 指導略案の検討
- 第8回研究会 平成25年1月31日(木)  
「Hi, friends! 1」を活用した小学5年生の授業・授業研究  
「英語教育研究グループ」作成指導略案をもとに担任による授業  
(山田第五小 篠田美千子 指導教諭)
- 第9回研究会 平成25年2月20日(水)  
Lesson4・Lesson5・Lesson6 指導略案の検討
- 第10回研究会 平成25年3月26日(火)  
Lesson7・Lesson8 指導略案の検討  
「Hi, friends! 1」 Lesson1~Lesson8 指導略案のまとめ

### 4. 今年度の取組

(1) 英語活動研修への参加

- ① 小中接続期・・・中学1年生の学習指導案  
研究協議から

# 英語科 学習指導案

吹田市立豊津中学校

指導者 教諭 藤田幸

1. 日 時 平成24年6月14日(木) 第6時限 14時30分～15時20分

2. 学年・組 第1学年3組(36名)

3. 単元名・使用教科書等 開隆堂出版 SUNSHINE ENGLISH COURSE 1  
PROGRAM 4 リサイクル活動

4. 単元目標

- ・What で始まる疑問文と応答の形、意味、用法を理解し、表現できる。
- ・名詞の複数形を理解し、How many で始まる疑問文と応答の形、意味、用法を理解し、表現できる。
- ・リサイクル活動に興味・関心を持ち、理解を深める。

5. 生徒観

当該クラスには、明るく素直な生徒が多く、英語の学習に対する姿勢も前向きである。男女1人ずつ2人が横並びに座っていることもあり、男女間も仲がよく、誰とでも自然にペア活動ができる。あいさつ、リーディング、スピーキングの声も大抵の場合大きく出すことができるが、時に失敗を恐れて小さくなることもある。また、中には、小学校外国語活動の段階でつまずき、英語の学習を嫌がる生徒や英語を「書くこと」に苦手意識を持つ生徒がいることが課題となっている。

6. 教材観

本単元では、リサイクル活動が私たちの生活にどのように役立つかの一例が扱われている。

① マイク、由紀、武史の3人が「日曜日は何をするか」を述べ合い、武史がときどきリサイクルの日があることを知らせる。

What で始まる質問をさまざまな一般動詞を使って行い、それに応答するという言語活動を充実させたい。

② マイクがリサイクルの日に興味を持ち、「リサイクルの日には何をするのか」たずね、武史と由紀が答える。そして、次の日曜日にあるリサイクルの日と一緒にいこうとマイクを誘う。

英語と日本語における数の扱い方の違いを知らせ、名詞の複数形に習熟させる。

③ リサイクルの日には3人は参加する。武史がボトルキャップをたくさん持参し、それが発展途上国の子どもたちを救うことができることをマイクは知る。

How many で始まる質問を行い、それに単数形・複数形を的確に使って答える言語活動を充実させる。身近にあるものをリサイクルすることによって、人間の命までもが救われることを知らせる。そのうえでリサイクル活動への興味・関心を高め、生徒自らのリサイクル活動への動機付けとしたい。また、他のリサイクル活動にはどんなものがあるか調べて発表させる。

## 7. 指導観

曜日の名前や教科名、I study ～.等は小学校外国語活動で学習してきている。また、Do you ～?とその応答等は中学校でもすでに学習した。そういった既習の学習事項と関連させて指導することを念頭に置く。最終的には、What や How many といった疑問詞を使った質問と応答ができるように、また、書けるようにさせたい。

## 8. 単元の評価規準

<p><b>A コミュニケーションへの関心・意欲・態度</b></p> <p>(言語活動への取組)</p> <p>① 積極的に英語で話したり、書いたりしようとする。</p> <p>② ペアワーク、グループワーク等において必要に応じて協力し合う。</p>	<p><b>B 表現の能力</b></p> <p>(正確な筆記)</p> <p>① 疑問詞、複数形を使って、自分のことや周囲のことを表現できる。</p> <p>(正確な音読・質疑応答)</p> <p>② 正しいアクセント・イントネーション・発音等を用いて音読・質疑応答ができる。</p>
<p><b>C 理解の能力</b></p> <p>(正確な読み取り・聞き取り)</p> <p>① 疑問詞や複数形を使った英文を読んだり、聞いたりして正しく理解することができる。</p> <p>(適切な読み取り・聞き取り)</p> <p>② 英語で書かれた情報や読まれた情報について、大切な部分を読み取ったり聞き取ったりできる。</p>	<p><b>D 言語や文化についての知識・理解</b></p> <p>(言語についての知識)</p> <p>① 疑問詞を用いた疑問文の語順、応答の形、複数形の用法について理解できる。</p> <p>(文化についての知識)</p> <p>② リサイクル活動についての知識を持ち、理解できる。</p>

## 9. 単元の指導と評価の計画

時	生徒が学習する内容	主な評価規準【4観点】
第1時 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般動詞の疑問文、曜日の言い方、教科の言い方の復習</li> <li>・What を用いた一般動詞の疑問文とその応答文の導入・活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の学習事項を使って積極的に言語活動を行う。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度 A-①】</li> <li>・What を用いた一般動詞の疑問文とその応答文について語順や用法を理解することができる。 【言語や文化についての知識・理解 D-①】</li> <li>・What を用いた疑問文やその応答文を使って表現できる。 【表現の能力 B-①②】</li> <li>・積極的に英語で話したり。書いたりしようとする。</li> <li>・ペアワーク、グループワーク等において、必要に応じて協力し合う。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度 A-①②】</li> </ul>

第2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書本文 (日曜日に何をするか) の内容把握・音読</li> <li>・「日曜日に何をするか」 を質疑応答する言語 活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>What</b> を用いた一般動詞の疑問文とその応答文を含む英語 で書かれた情報について大切な部分を読み取ることがで きる。【理解の能力 C-①②】</li> <li>・正しいアクセント・イントネーション・発音等を用いて音 読できる。【表現の能力 B-②】</li> <li>・ <b>What</b> を用いた一般動詞の疑問文とその応答文を使って表 現できる。【表現の能力 B-①②】</li> <li>・積極的に英語で話したり、書いたりしようとする。</li> <li>・ペアワーク、グループワーク等において、必要に応じて 協力し合う。</li> <li>【コミュニケーションへの関心・意欲・態度 A-①②】</li> </ul>
第3時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名詞の複数形の導入・ 活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名詞の複数形について、概念や用法を理解することがで きる。【言語や文化についての知識・理解 D-①】</li> <li>・名詞の複数形を使って表現できる。【表現の能力 B-①②】</li> <li>・積極的に英語で話したり、書いたりしようとする。</li> <li>・ペアワーク、グループワーク等において、必要に応じて 協力し合う。</li> <li>【コミュニケーションへの関心・意欲・態度 A-①②】</li> </ul>
第4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書本文 (リサイクルの日には 何をするか) の内容把握・音読</li> <li>・名詞の複数形の習熟</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数形を含む英語で書かれた情報について大切な部分を 読み取ることができる。【理解の能力 C-①②】</li> <li>・正しいアクセント・イントネーション・発音等を用いて音 読できる。【表現の能力 B-②】</li> <li>・「リサイクルの日」とは何かを知り、理解できる。 【言語や文化についての知識・理解 D-②】</li> <li>・名詞の複数形を使って表現できる。【表現の能力 B-①】</li> </ul>
第5時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>How many</b> を用いた疑 問文とその応答文の 導入・活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>How many</b> を用いた疑問文とその応答文について 語順や 用法を理解することができる。 【言語や文化についての知識・理解 D-①】</li> <li>・ <b>How many</b> を用いた疑問文やその応答文を使って表現でき る。【表現の能力 B-①②】</li> <li>・積極的に英語で話したり、書いたりしようとする。</li> <li>・ペアワーク、グループワーク等において、必要に応じて 協力し合う。</li> <li>【コミュニケーションへの関心・意欲・態度 A-①②】</li> </ul>
第6時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書本文(リサイク ル活動の意義)の内容 把握・音読</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>How many</b> を用いた疑問文やその応答文を含む英語で書か れた情報について大切な部分を読み取ることができる。 【理解の能力 C-①②】</li> <li>・正しいアクセント・イントネーション・発音等を用いて音 読できる。【表現の能力 B-②】</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ How many を用いた疑問文とその応答文の習熟</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リサイクル活動の意義を理解し、自らのリサイクル活動や他のリサイクル活動について考える。 【言語や文化についての知識・理解 D-②】</li> <li>・ How many を用いた疑問文やその応答文を使って表現できる。【表現の能力 B-①②】</li> <li>・ 積極的に英語で話したり、書いたりしようとする。</li> <li>・ ペアワーク、グループワーク等において、必要に応じて協力し合う。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度 A-①②】</li> </ul>
--	---	--

## 10. 本時の展開

### (1) 本時の目標

- ・ What を用いた一般動詞の疑問文を使って、「何曜日にどの教科を学習するか」や「朝食に何を食べるか」を質問することができ、他の人の応答を正確に聞き取ることができる。  
また、その質問に自分のことについて答えることができる。
- ・ What を用いた一般動詞の疑問文とその応答文を書くことができる。

### (2) 本時の評価規準

- ・ What を用いた一般動詞の疑問文とその応答文について語順や用法を理解することができる。  
【言語や文化についての知識・理解 D-①】
- ・ What を用いた一般動詞の疑問文を使って、質疑応答ができる。【表現の能力 B-②】
- ・ What を用いた一般動詞の疑問文とその応答文を書くことができる。  
【表現の能力 B-①】
- ・ 積極的に英語で話したり、書いたりしようとする。  
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度 A-①】
- ・ ペアワーク、グループワーク等において必要に応じて協力し合う。  
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度 A-②】

### (3) 本時の学習過程

	生徒の学習活動	指導内容 (○) 及び指導上の留意点 (●)	評価規準 及び 評価方法
8分	A. ウォーミングアップ 前時の復習 1. あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個人に既習の疑問文で問いかける。</li> <li>○ 全体に小学校外国語活動で学習した曜日、日付、天気を問いかける。</li> </ul>	A-① B-② 活動の観察



	<p>2. 前時の内容確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歌 ” Sunday, Monday, Tuesday”</li> <li>・ 教科名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 英語ノート 1 デジタル版とともに歌わせた後、フラッシュカードで曜日の名まえを確認する。</li> <li>○ 英語ノート1デジタル版とピクチャーカードを使用する。</li> <li>● あいさつ、歌とも元気よく発声させる。</li> </ul>	
20分	<p>B. 言語材料の提示と定着</p> <p>1. 疑問詞 <b>what</b> を用いた疑問文の導入</p> <p>2. 教科書 p. 38 「おぼよう」 「聞いてみよう」</p> <p>3. 教科書 p. 38 「言ってみよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文法ポイントを書いたプリントを使用する。</li> <li>● 既習の <b>Do you study ~?</b> の疑問文と応答文は生徒から引き出すようにする。</li> <li>○ 指導用 CD に沿って活動させる。</li> <li>○ 「英語ノート 1 Lesson 8」を応用し自分の時間割を作った後ペアで対話させる。</li> <li>● 正しく英語を使っているか机間指導。</li> <li>● 2～3 ペアに発表させる。</li> </ul>	<p>A-①② D-①</p> <p>活動の観察 ◎ <b>What</b> を用いて 「何を学習するのか」 の問答ができる。</p>
20分	<p>C. 学習内容の活用</p> <p>1. 教科書 p. 38 「使ってみよう」</p> <p>2. インタビューした まとめを英語で書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ クラス内でインタビューを行い、ビンゴシートに記入させる。</li> <li>● インタビューに答えた生徒名でビンゴゲームを行う。その際、出席番号カードを生徒にひかせ、英語でその数字を言わせる。</li> <li>○ ビンゴシートの下部にあるワークシートに記入させる。</li> <li>● 机間指導して <b>slow learners</b> の支援をする。</li> </ul>	<p>A-①② B-②</p> <p>活動の観察</p> <p>B-①</p> <p>ワークシートの添削 ◎動詞をかえた上での <b>What</b> の疑問文の問答と書くことができる。</p>
2分	<p>D. まとめ あいさつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>What</b> を用いた一般動詞の疑問文とその応答文のまとめ。</li> </ul>	



## 研究協議から

### 研究協議参加者の意見・感想

- ・小中接続期について、小学校で培われた「積極的にコミュニケーションする素地」を中学校でも活かしてもらいたい。
- ・小学校と中学校でお互いの授業を見る機会が少ない。もっと小中間で授業研究を行ったり、小学校外国語活動で取り組んだ内容を中学校へ申し送ると良い。
- ・子ども個人の発話のあと、コーラスリーディング（全体でくり返す）することにより、授業にリズム感が生まれる。クラスコントロールに役立っている。
- ・ペアワークでは、子どもが楽しそうにいきいきと活動していた。
- ・ペアワークで、2人がお互いに助け合う場面が見られた。
- ・ペアワークが本当に機能しているかどうかの評価基準は何か。
- ・小学校外国語活動では、子どもに文字を書かせることはしないが、ターゲットセンテンスを文字で書いて見せたり、アルファベットカードを使ってカルタ遊びや並べかえて単語をつくるゲームなどを行っている。
- ・小学校でフォニックスを指導してもらえるとありがたい。
- ・言語活動が主となっているが、「書く」ことの指導はどのように行っているのか。

### 授業者より

- ・今回の授業は「英語ノート1 Lesson 8」との関連である。すべて、小学校外国語活動をベースにして、小学校で養われた「積極的にコミュニケーションする素地」を活かしながら中学校の学習内容へ発展させることを意識した。
- ・個人の発話で終わらず、コーラスでくり返すことにより、学びの共有ができる。また、発話の内容はターゲットセンテンスが含まれていることが多いため、生徒全員の反復練習となり、ターゲットセンテンスの定着につながる。
- ・英語がコミュニケーションツールである以上、コミュニケーションの相手が必要である。相手はネイティブスピーカーでない生徒同士がペアを組むことになる。しかし実際の場面では、様々な相手とのコミュニケーションが展開されるため、ペアワークも、固定せずたくさんの相手と経験させている。
- ・ペアワークが機能すると助け合って課題に取り組むようになり、相手の成長を心から喜び合えるようになる。しかし、ペアワークの評価は「活動の観察」という形で行われることが多いが、全部のペアを限られた時間で観察することは難しい。的確な評価が課題である。
- ・小学校外国語活動で「コミュニケーション能力の素地」が養われ、それが中学校英語で「コミュニケーション能力の基礎」に高められることが、新学習指導要領にうたわれている。小学校外国語活動を経験してきた生徒たちは入学当初よりあいさつ、日付、曜日、時刻、天気などに関することを「聞く」、そしてその応えを「話す」ことができる。小学校外国語活動の賜物である。その一方で、中学校英語で求められる文字を使って単語や文を「読む」「書く」ことに苦手意識を持ち、英語嫌いになってしまう生徒が多い。特に「書く」ことはハードルが高い。英語嫌いにさせない「書く」活動の工夫がこれからの中学校英語の課題である。

## 小学校外国語活動学習指導案

指導者 教諭 池田広恵 (吹田市立第一中学校)  
教諭 藤川久美 (吹田市立千里第二小学校)

1. 日 時 平成24年10月29日(月)第6時限 14時35分～15時20分

2. 場 所 6年 雪組 教室

3. 学年・組 第6学年雪組(38名)

4. 単元名・使用教科書等

**Hi, friends! 2 Lesson6 What time do you get up?**

5. 単元目標

- ・積極的に自分の一日を紹介したり、友達の1日を聞き取ったりしようとする。
- ・生活を表す表現や、1日の生活についての時刻を尋ねる表現に慣れ親しむ。
- ・世界には時差があることに気づき、世界の国々の様子に興味を持つ。

6. 扱う語彙・表現

1～60の数字/ What time is it? It's ~.

/Turn right. Turn left. Go straight. Stop.

7. 児童観

本学級においては、まじめでおとなしく、指示を素直に受け止め、がんばろうとする姿勢がよく見られる一方で、自信のなさや恥ずかしさから、自分の意見や考えを発表することを苦手としている児童も多い。外国語の時間については、一人一人が声を出して、積極的にチャンツや単語等の練習に楽しく取り組んでいる。また、ペアやグループで行うゲームでも、進んで英語を話そうとする様子が見られ、1学期に行った‘I can ~.’を使った自己紹介では全員が前に出て落ち着いて発表することができた。今後も外国語活動を通して、楽しんで英語で話したり友達と関わったりし、誰もが思いを出し合えるようになることを目指したい。

8. 教材観

この単元は、時刻を尋ねたり答えたりする単元である。国内のみならず、世界の時刻を聞くことを通して、時差があることに気づき、広く海外にも目を向けることができる。また、生活に関する時刻を尋ねたり、答えたりすることを通して、お互いのことをより深く知ることができ、友達との関係をより強いものにすることができる。

9. 指導観 この単元では、単にペアやグループで時刻を尋ねるだけでなく、人に関心を持ち、コミュニケーションを積極的にとろうとする素地を養うために、誰がクラスでもっとも早く起きるのかなど、同じクラスの友達に対して興味を抱くような活動を盛り込みたい。また海外での時刻や、時差があることに気付くことを通して、児童の視野を広げる指導を心がけたい。単元の最後では、スピーチをする機会をもうけ、自分の意見や考えを自信を持って相手に伝える姿勢を育てたい。

10. 単元の評価規準

A コミュニケーションへの関心・意欲・態度	B 外国語への慣れ親しみ	C 言語や文化に関する気づき
<ul style="list-style-type: none"> <li>時刻や動作を表す表現を使って、自分の一日の行動を紹介したり、友達の一日の様子を聞いたりして、友達と積極的に交流している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一日の生活について、時刻や動作を表す表現を使って、英語で尋ねたり答えたりしている。</li> <li>一日の生活を調べ、様々な表現を使って発表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A L Tと一日の過ごし方や時差について話し合いながら、異なる文化に対する理解を深め、世界には時差があることに気づいている。</li> <li>自分の一日の生活について、相手にしっかりと紹介をするための、スピーチの仕方に気づいている。</li> </ul>

11. 本課の指導と評価の計画（全5時間）

時	児童が学習する内容	主な評価規準【3観点】
第1時 (本時)	1～60までの数字 時刻の言い方 時刻を尋ねる言い方、	A コミュニケーションへの関心・意欲・態度 B 外国語への慣れ親しみ
第2時	時刻を尋ねる言い方 時刻の言い方 生活を表す表現	A コミュニケーションへの関心・意欲・態度 B 外国語への慣れ親しみ C 言語や文化に関する気づき
第3時	生活を表す表現やその時刻を尋ねる表現	A コミュニケーションへの関心・意欲・態度 B 外国語への慣れ親しみ C 言語や文化に関する気づき
第4時	生活を表す表現やその時刻を尋ねる表現 先生へのインタビュー スピーチ準備	A コミュニケーションへの関心・意欲・態度 B 外国語への慣れ親しみ C 言語や文化に関する気づき
第5時	生活を表す表現 自分の一日の紹介スピーチ	A コミュニケーションへの関心・意欲・態度 B 外国語への慣れ親しみ C 言語や文化に関する気づき

## 12. 本時の展開

### (1) 本時の目標

- ・1～60までの言い方や時刻を尋ねたり、答えたりする言い方を知る。
- ・ペアやグループ活動に積極的に参加し、時刻を尋ねたり、答えたりする言い方を使うとする。
- ・コミュニケーションの約束（Clear voice, Eye contact, Nice smile）を実行しようとする。

### (2) 本時の評価規準

- ・コミュニケーションの約束を実行しようとしたか。
- ・ペアやグループ活動に積極的に参加し、時刻を尋ねたり、答えたりする言い方を使うとしたか。

## 13. 準備物

パソコン、書画カメラ、プロジェクター、スクリーン、ウォークマン、 Hi, friends!2 デジタル版、 時刻のカード 道案内のカード、 コミュニケーションの約束の絵カード、 すごろくプリント、時計、ふり返りシート

### (3) 本時の学習過程

時間	児童の学習活動	指導内容	指導上の留意点 ◎評価規準
導入 ① 7 分	挨拶 きょうのめあての確認  Warming up: Chants 'How many penguins?'	(T1) (T2) 挨拶 (T2) 今日のめあての確認	・元氣よく挨拶 ・チャンツは大きな声でリズムに合わせて
展開 ① 6 分	1～60まで復唱  Hi, friends 2! P.22の数字を押さえながら‘ブリッジゲーム’をする。 ・ペアでじゃんけんをして、勝った人は1から、負けた人は60から発音していく。出会ったところでじゃんけんをする。 ・1からと60からを交代して、再度行う。	(T1) 1～60までの数字を英語で言う  (T1) (T2) ブリッジゲームのデモンストレーション	・数字の言い方がわからないときは支援

<p>展開 ② 5分</p>	<p><b>Skit:</b> What time is it?を使ったスキットを聞く。 What time is it?を言う練習をする。</p>	<p>(T1) (T2) スキットを行う ①公園で道行く人に声をかける場面 (T2)What time is it? (T1)It' s ○○. ②テスト中に時計が見えなくて声をかける場面 (T2)What time is it? (T1)It' s ○○. ③ニュースキャスターが中継中の海外特派員に声をかける場面 (T2)What time is it? (T1)It' s ○○.</p>	<p>・場面を意識させる</p>
<p>展開 ③ 5分</p>	<p>時計を見ながら、 What time is it? It' s _____の練習をする  しっかり言えているか隣どうし、お互いにチェックしあう。</p>	<p>(T1)What time is it? (T2)日本語では○時○分っていい ます。 (カードを出す) 英語では (T1) It' s ○○. 同じパターンで練習  (T1)隣の児童と点検しあうよう 指示。</p>	<p>・大きな声で ・自信をもって</p>
<p>展開 ④ 5分</p>	<p>Let' s Listen 1 (P22)</p>	<p>(T2) パソコン操作 What time is it? 1 It' s eleven fifteen. 2 It' s ten forty-five. 3 It' s six twenty-two.</p>	<p>・聞き取るのが難しい場合には 支援  ◎時刻に関する問 答を一生懸命聞 こうとしている。</p>
<p>展開 ⑤ 1 2 分</p>	<p>すごろくゲーム： デモンストレーション後 ・児童は教員と一緒に練習 する。 Go straight. Turn right (left) What time is it? (教員) It' s○○. (児童)</p>	<p>(T1) (T2)デモンストレーション (T1) Go straight. Turn right(left). What time is it? (T2)It' s ○○.  (T2)各班でじゃんけんして順番を 決めてやることを指示</p>	<p>◎コミュニケーションの約束を守り、ペアやグループで積極的に時刻を尋ねあおうとしている。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 班でじゃんけんをして順番を決め1番からリーダーになり 'Go straight. Turn right(left)</li> <li>What time is it? と尋ね、2番~4番の人は 'It' s○○' と答える。</li> <li>• 次は2番の人が残りの人に尋ねる。</li> <li>• 3番以降繰り返す。</li> </ul>	
<p>まとめ 5分</p>	<p>時計をみながら、時刻を答える。</p> <p>ふりかえりシートを記入する</p> <p>あいさつ Thank you very much.</p>	<p>時計をみながら、時刻を尋ねる表現のまとめをする。</p> <p>(T2) 振り返りシートを書くことを指示</p> <p>Thank you very much. See you again. Good bye.</p>



## 研究協議から

### 研究協議参加者の意見・感想

- ・担任と専科教員とがバランスよく授業を展開していた。
- ・デモンストレーションを行うことで、説明が短くわかりやすくゲームの説明ができた。
- ・何度も繰り返してキーセンテンスを言うので、定着しやすいがもっと新しいレッスンのキーセンテンスをいう練習をした方がよい。
- ・スキットをやることで、どんな場面で使う英語なのかわかりやすい。
- ・授業の流れが黒板に書いていたり、コミュニケーションの3つの約束が絵で示されていて子どもにもわかりやすい。
- ・振り返りシートで授業の初めに今日の目標を提示しているので、何を頑張ればいいのかわかる。
- ・以前にやったレッスンの文章も入っていて復習になっていた。
- ・時計のところは難しいので1から60までのすべての数字をいう必要はないのではないか。
- ・もっとクラスルームイングリッシュを使った方がいい。
- ・fifteen と fifty の言い方は難しいので、もっと注目させたほうがよかった。

### 授業者より

- ・授業を考えるとときに気を付けていることが2点ある。1点目は、授業をバックワードデザインするという事。そのための活動をまず考え、その活動ができるようにするためにはどんな活動を前にやらなければいけないのかを後ろから順番に考えていく。また、情報カードを使って、活動を5分から10分でひとつと考え、カードを入れ替えながらつながりのある授業に構成することを目指している。
- ・2点目は、授業のテンポである。子どもの集中力を考えると5分から10分が限界だと考える。そのため1つの活動は15分以内としている。
- ・課題としては、テンポを気にするあまり活動を盛り込みすぎてしまったところで、子どもに考える余地を与えていなかった。また、ゲームの方法が曖昧であった。ねらいとする英語の発話が組み込まれるような方法を考える必要がある。

### ③ 小中の接続期・・・中学1年生と小学6年生の研究授業から

研究グループは、接続期にある中学1年生と小学6年生の授業の様子や実態を把握することで、指導略案づくりに活かしてきました。また、協議での参加者の意見等も参考にしています。2本の授業で、研究グループの観点は以下の3点です。

- ① 小学校外国語活動が中学校英語にどのようなつながっているか。
- ② 中学校の授業を観て小学校授業に活かせるところ。
- ③ 小学校T・T形式の授業の工夫。

授業内容・協議ともに中身が濃く研究に大変役立つものとなりました。スーパーバイザーである竹内教授からもたくさんの助言をいただき、その後の指導略案づくりに活かしました。



(2) 英語教育研究グループ作成指導略案をもとにした公開授業

- ① 参加者配付資料の中から・・・授業者 日時 学年組 場所 単元名  
教材観 児童観

## 英語教育研究グループ 公開授業について

授業者	吹田市立山田第五小学校 指導教諭 篠田 美千子 先生 (5年1組 担任)
日時	平成25年(2013年)1月31日(木) 6時限目(14:30~15:15)
学年・組	第5学年1組(24名)
場所	吹田市立山田第五小学校 5年1組教室
単元名	Hi, friends! 1 Lesson 9 「What would you like?」(本時3/4)

### Lesson 9 教材観

本単元では、子どもたちが大好きなメニューを扱いながら、言語材料としては、Lesson 6で学んだ”What do you want?”の丁寧な表現である”what would you like?”やその応えかた”I'd like ~.”に習熟することをねらいとしている。

誰もが身近に感じる食を取り上げることにより、楽しく英語を用いた活動ができ、食育の観点からも、栄養バランスのよいメニューや適正カロリーのヘルシーメニューなどを考え、日ごろの食生活を振り返ることができる。

また、国際理解の観点からは、各国の給食メニューを知ることによって、各国の特色ある料理や食習慣など文化の違いを学習できる等、外国語活動の枠を超えて、広く深く学び合える単元である。

### 児童観

本学級の児童は、男子10名、女子14名の元気なクラスである。休み時間は、ほとんどの子が運動場で活発に体を動かしている。現在、2月19日に予定されている児童会行事「大なわ大会」に向け、クラス全員で協力して取り組んでいる。しかし、自分から進んで行動するのは苦手である。

学習においても、積極的に意見を発表することができる児童もいるが、友だちの意見を聞き、それについて考えたり、話し合いを深めたりというのには消極的である。また、友だちの目を気にして自分の意見を発表するのを躊躇し、誰かが発表するのを待っている女子も多く見られる。

そこで、自由に自分を表現する勇気とチャンスをと、2学期から「漫才」に取り組んでいる。言葉を伝えることの難しさを知ると同時に、伝えられた時の楽しさを経験することによって、少しずつ発表ができるようになってきているように感じている。

外国語活動においては、ゲームなどの活動は意欲的に取り組む児童が多いが、一対一で英語を言うことを恥ずかしがる児童は少なくない。十分な練習が成されておらず、自信がないからである。そこで、対話表現に十分な練習を重ね、友だちとコミュニケーションをとる楽しさを味わうと同時に、一人一人が積極的に取り組めるように指導していきたい。（文 篠田先生）

## ② 公開授業・研究協議から

今回の公開授業は研究グループが作成した指導略案をもとに行いました。子どもの実態に応じて、「あいさつ」をアレンジしたり「単語」の練習を増やしたりと授業者のオリジナリティや工夫も盛り込まれた授業でした。

5年生の最後の単元で、まとめの単元でもあります。そこで、校長先生や1年間子どもたちと関わりのあった先生方の協力も得た展開にしました。

研究協議での柱は2つ A 指導略案について

B 自分が指導するとすればどうアレンジするか

Aについて

- ・指導書と略案を一緒にみると授業の流れがイメージしやすい。
- ・会話文が具体的に書いてあるのでわかりやすい。
- ・指導書には流れがのっていないので、大変役に立つ。
- ・Hi, friends!の具体例がわかり、良かった。
- ・準備物もあると良い。
- ・アクティビの説明は経験のある人と、ない人とでは感じ方が違う。

経験者・・・簡単でアレンジしやすい。

経験のない者・・・もっと細かい説明がないとわかりにくい。

Bについて

- ・メニューを26種類の中からでなく、主食・副食・デザートに3グループに分けて選択させる。
- ・ビンゴゲームを活用して、周りの人に好きなメニューを聞く。
- ・40人学級であれば、机の形態や練習量を悩む。
- ・担任一人で授業する場合はどうしたらよいか思案。
- ・感情表現もできるようにする。

たくさんの意見交流ができ、引き続き指導略案づくりの参考にしていきたいと思いました。講師の竹内先生のアドバイスにもありましたが、子どもが興味関心を持つためには、さらにひと工夫。たとえば、自分の考えたメニューを1つ増やしてみるなど、今後も楽しい授業づくりを研究していきます。

③ 研究グループ作成指導略案

**研究 G7フォーム**

**Hi, friends! 1 Lesson 4—3** 本時

本時の目標：校長先生と専科の先生の好きなランチメニューを作ろう。

	児童	担任	使用教材
導入	<p>Hello. OK. I'm fine.(hungry, tired..)</p> <p>メニューの単語の復習をする</p>	<p>Hello. Let's study English.</p> <p>How are you?</p> <p>p.38,39 のデジタル版を映す Lesson4 P37 の Let's Chant をさせる</p>	<p>展示用メニューカード</p>
展開	<p>①ペアで校長先生と教頭先生の好きなランチメニューを作る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先生に好きなランチメニューを1つ聞く</li> </ul> <p>S: What would you like? T: I'd like ~, please.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ペアであと2つ、先生の喜びそうなスペシャルランチメニューを考える</li> <li>メニューを注文しに行く</li> </ul> <p>S: Hello. C: Hello. S: What would you like? C: I'd like ~, please. S: OK. Here you are./ Sorry. C: Thank you.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>S と C を入れ替える</li> </ul>	<p>(校長先生・教頭先生)</p> <p>あらかじめ、ペアの数と同じだけのランチメニューを考えてカードを持ち、ペアごとに違ったメニューを答える。</p> <p>demonstration をする</p> <p>相手がもらって喜びそうなメニューを考えるようにさせる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自分が探しているメニューのあるお店を探す</p> <p>①クラスを二つに分け、それぞれをお客さん(C)とお店屋さん(S)に分ける。</p> <p>②お店屋さんは席に座る。お客さんはお店屋さんのところに行き、注文をする。</p> <p>③お店屋さんは注文されたメニューカードがあれば渡す。</p> <p>④お客さんは他のお店屋さんに行き、欲しいメニューがあるお店を探す。</p> </div>	<p>料理の組み合わせカード</p> <p>会話文の拡大掲示</p> <p>メニューカード</p> <p>メニューカードを隠す下敷き</p> <p>給食のエプロン</p>

	<p>②選んだメニューが先生の好みに合っているかを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長先生と教頭先生にあと2つ何が食べたいかをたずねる。</li> </ul> <p>S: What would you like? T: I'd like ~ ,please. S: OK. Here you are./Sorry. T: Thank you.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイントの多いペアの勝ち。拍手でたたえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べたいメニューを校長先生・教頭先生に渡すことができれば、1ポイントを与える。</li> </ul>	
まとめ	<p>振り返りカードを書く</p> <p>Goodbye</p>	<p>That's all for today. Good bye.</p>	<p>振り返りカード</p>



④ 授業者アレンジ指導略案

**授業者アレンジ**

Hi, friends! 1 Lesson9-3 **本時**

本時の目標：校長先生と専科の先生の好きなランチメニューを作ろう。

	児童	担任	使用教材
導入	<p>Hello, Ms. Shinoda. OK. It's Thursday. It's January 31<sup>st</sup>. It's ~. I'm fine. (happy, tired.)</p> <p>メニューの単語の復習をする</p>	<p>Hello, everyone. Let's start English lesson. What day is it today? What's the date today? How's the weather? How are you?</p> <p>カードを使って練習をさせる Lesson9 P.37 の Let's Chant をさせる</p>	<p>掲示用メニューカード</p>
展開	<p>①ペアで校長先生と教頭先生の好きなランチメニューを作る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先生に好きなランチメニューを1つ聞く</li> </ul> <p>S: What would you like? T: I'd like ~, please.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ペアであと2つ、先生の喜びそうなスペシャルランチメニューを考える</li> <li>メニューを注文しに行く</li> </ul> <p>A : Hello. B : Hello. A : What would you like? B : I'd like ~, please. A: OK. Here you are./ Sorry. B: Thank you.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A と B を入れ替える</li> </ul>	<p>(校長先生・教頭先生)</p> <p>あらかじめ、ペアの数と同じだけのランチメニューを考えてカードを持ち、ペアごとに違ったメニューを答える。 demonstration をする</p> <p>相手がもらって喜びそうなメニューを考えるようにさせる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自分が探しているメニューのあるお店を探す</p> <p>①クラスを二つに分け、それぞれをお店屋さん(A)とお客さん(B)とに分ける</p> <p>②お店屋さんは席に座る。お客さんはお店屋さんのところに行き、注文をする</p> <p>③お店屋さんは注文されたメニューカードがあれば渡す</p> <p>④お客さんは他のお店屋さんに行き、欲しいメニューがあるお店を探す</p> </div>	<p>料理の組み合わせカード</p> <p>会話文の拡大掲示</p> <p>メニューカード</p> <p>メニューカードを隠す下敷き 給食のエプロン</p>

	<p>②選んだメニューが先生の好みに合っているかを確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長先生と教頭先生にあと2つ何が食べたいかをたずねる</li> </ul> <p>S: What would you like? T: I'd like ~, please. S: OK. Here you are./ Sorry. T: Thank you.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイントの多いペアの勝ち。拍手でたたえる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べたいメニューを校長先生・教頭先生に渡すことができれば、1ポイントを与える</li> </ul>	
まとめ	<p>振り返りカードを書く</p> <p>See you.</p>	<p>That's all for today. See you, next time.</p>	振り返りカード

## 5. おわりに

今年度は、英語活動研修「授業研修」への参加をスタートに様々な授業方法や授業形態を参観し、指導略案づくりの参考としました。小学校の外国語活動を2年間経験した子どもたちが中学校に進学して「英語科」になり、どんな様子で授業を受けているか。小学校の活動が活かされているのか。中学校の専科教員と小学校の担任とのチームティーチング型授業の工夫等、多くの手がかりがありました。

3学期は山田第五小学校の協力のもと、初めて研究グループ作成「指導略案」授業を公開しました。参加者の様々な意見や授業者である篠田先生の感想を、今後の取組に活かしたいと考えます。

6年生の「指導略案」35時間分が出来上がろうとしています、「これが完成品！」ではなく、これからも研究を続け、より良いものを目指して手直し・練り直しをしていきます。そして来年度（H25年度）は小学校5年生の「指導略案」作成に取りかかります。